

## 全連小顧問代表の辞

全連小第 30 代会長 露木昌仙 顧問

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔みを申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

3月の臨時休業以来、卒業式や入学式は行ったものの3か月余りも子供たちが学校へ行かれない状況が続いている学校も多くあると伺っております。

家庭で外出を自粛し、一所懸命に課題等に取り組んでいる子供たちからは「学校に行きたい。友達と遊びたい。一緒に勉強したい。」という声が聞こえてきます。このような声に励まされ、緊急事態宣言の中にも関わらず学校で教材作成や児童の健康状況等の確認を継続的に行っている教職員や校長先生方の強い使命感に敬意を表するものです。

このような中、全国連合小学校長会第七十二回総会が、紙面・メール等を介して開催されると伺いました。全国の校長先生方の代表が一堂に会することはできませんが、たいへん意義ある総会であると認識しております。

3月までは、学習指導要領の移行期間として、主体的・対話的で深い学びの推進、ICT教育、英語指導など多くの課題に対し、校長先生方のリーダーシップの下、学校は授業改善に努めてきました。いよいよ全面実施の中で「社会に開かれた教育課程」とするため、一層の学校改革、授業改革が求められております。これまで進めてきた流れを継続し、より高める校長先生のマネジメント力を発揮させるとともに、教職員の努力を認め、よさを伸ばし、一人一人の成果をチーム学校の力として高める人材育成を今後も続けていきたいと願っております。その上で、学校の方針や方策、成果等を保護者や地域にも発信することで、信頼関係に基づいた地域に開かれた学校がより推進されるものと考えております。

文部科学省からは「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について（通知）（2年5月1日）」等が示されています。学習の遅れを取り戻すため、長期休業日短縮、学校行事縮小、土曜授業実施等が検討されています。学習を保証するというのが一番の命題であることに間違いはありません。しかし、学習という言葉のとらえ方が従前の学習内容という意味に偏り、内容を教え込むことが重視されるのではないかと懸念されています。また、「児童生徒が密集して長時間活動するグループ学習」は行わない前提では、児童の主体的・対話的な学習や人格形成に関わる人と人との触れ合いが難しいと危惧しております。

この機を狙っていたかのように学校の9月入学問題が検討されていますが拙速であってはなりません。

新たな共通主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の実現を目指し、全国の校長先生方の力を結集し、学校づくりを進めていきたいと願っています。